

# ひめまつ

46



宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

# ひめまつ 目次

(第四十六号)

表紙絵……………草間 奈緒子

題字……………石川木魚

写真……………写真部・編集部

## 巻頭言

新体育館の建設について……………校長 須賀 淳……………1

◆全員参加の生徒会を（生徒会会長に就任して）……………阿久津純子……………4

◆望まれる積極的参加（任務を終えて思うこと）……………福田 有美……………5

## 〈声〉 青春時代に思うこと

「劇」……………三年 増淵 貴雄  
「進学と就職」……………三年 松本 裕史  
「青春とは自分で創るもの」……………三年 木更津久栄

「青春時代とは」……………三年 澤田 哲  
「チャレンジ精神をもつ」……………二年 村上 祐一  
「可能性を生かす」……………二年 有坂 法子

「僕の青春時代はこれからだ」……………二年 高橋 渉  
「充実した日々の積み重ね」……………二年 今井 智子  
「貴重な体験バネに」……………一年 小林 康宏  
「今この時を迎えて」……………一年 福田 朋子  
「あいまいな時代が好き」……………一年 大塚有紀子

「さまざまなドラマの連続」……………一年 深谷こず恵  
「時間を大切に有意義に」……………一年 作田友規子  
「高校生としての自覚」……………一年 前野 晃子  
「モーツァルトと私」……………一年 福島 康宏

## \*心に強く響くもの（校内読書感想文入賞作品）……………17

「野火」……………三年 佐藤 寛美  
「大地の子」……………三年 夕下 智亮  
「流転の海」……………三年 荒谷 譲治  
「異邦人」……………二年 米山真由美  
「不思議な少年」……………二年 田中 久稔

「裁きの家」……………二年 野澤真由美  
「アンネの日記」……………一年 北島 経子  
「杜子春」……………一年 福原明日香  
「己に克つ—小さな自分を乗り越えるために」……………一年 久保野祥子

◇作品集

..... 30

詩

〔三年〕松本由美子 他

短歌

〔二年〕手塚 恵美 他

俳句

〔二年〕堀江 満世 他

☆あとらんだむ

..... 37

〔二年〕大嶋 貴子・〔二年〕直井 美樹

◇トピックス

NHK青春メッセージ全国大会に出場 他 ..... 40

月関西・四国・大洗・日光の旅

..... 44

〔三年〕大野 晃代・加藤 由佳

〔二年〕松本 房子・阿部 京子

〔二年〕小林 優子

招待席

和久 誠・大崎 雄昭・南原 智恵・森島 一雄 ..... 48

◆わがホームルームの紹介

..... 54

◆委員会・クラブ活動この一年

..... 111

★学園告知板

..... 122

附属中コーナー

..... 135

読書感想文入賞作品・PTA役員 その他

◎平成三年度生徒会報告

..... 147

◇就職状況

..... 154

◇職員住所録

..... 157

◇編集後記・奥付

..... 162



いま巣立ちゆく一晴れの卒業式

## 学園の四季



▲暑さにもめげず日光東照宮会館での合宿  
▶恒例の校内合唱コンクール



先輩の心づくしの品々で調理科の新入生歓迎会



宇都宮短期大学附属中学・高等学校

### 校歌

作詩 首谷徳次郎  
作曲 野原幸夫

ふ た ら の た か ね を は る か に あ お ぎ  
に た も に し げ れ る ひ め ま つ こ ま つ  
ま な び の み ち す じ ま さ き く あ れ と  
か た み に ち か い て い そ し み は げ む  
お ま し な え び の に わ こ そ げ に と め う た け れ  
あ わ れ と め う と こ の ま な び や

校歌

一 二 荒の高嶺を 遙かに仰ぎ

学びの道筋を まさきくあれと

かたみに誓いて いそしみ励む

教への庭こそ げに尊けれ

あわれ尊 この学びや

二 庭面に茂れる 姫松小松

変らぬ操は 千代万代と

かたみに祝いて いそしみ励む

学びの庭こそ げに芽出度けれ

あわれ芽出度 この学びや



学園のメインイベント

校内球技大会  
水泳大会  
平成3年7月8日~11日

校庭いっぱい若さを発散

日光スケート教室  
平成3年1月16日



オットットツ、へへへ...



お天気に恵まれて、スケート教室のにぎわい



私はだれでしょう？みんなですべればこわくない



▶友情でもリンクではアブナイよー

◀おっとごめん！あらー、いやだー！



助けてー。3人でヨッコラショ。



元気いっぱいにと校長先生の開会のことば



当日人気を集めたサッカー



ご自慢の屋上プールで水しぶきを上げて……



いけ、いけ、エイ・シンと応援団も熱戦

ちょっと、ひと休み、県運動公園内の噴水の前で



巻頭言

新体育館の建設について

校長 須賀

あつし 淳



十余年の歴史のうえではじめてのことです。月には入学してきます。

平成四年の新春もおだやかに明けました。学校も第三期、三年生は間もなく卒業です。進学・就職と胸ふくらませて本校を巣立ってゆきます。

三年生の皆さんは、本校創立九十周年という記念すべき年に際し、新しく建設された須賀栄子記念講堂での記念式典や記念学校祭にも出ることができました。

本校は、この創立九十周年を契機として、一段の飛躍発展を期しているところですが、このたび行われた入学試験では、本校教育の真価が認められて、一万余名の入学志願者を迎えることができました。これは本校九



バートン先生の愉快な授業(普通科)



先生の指導でしほり染めに取り組む(生活教養科)



楽しいケーキ作り講習会(調理科)

各科だより



はなやかに卒業演奏会(音楽科)



学校祭にワープロによる図形作品を展示(情報商業科)

生徒会役員

副会長 今井智子	副会長 青木勝彦	会長 阿久津純子	会計 草刈文枝
庶務 佐藤睦美	庶務 稲葉智美	会計 久保野祥子	議長団 高野淳悟
議長団 近藤綾子	議長団 大塚有紀子	議長団 松島愛美	





このことはとりもなおさず、生徒の皆さんがしっかりと勉学に励み、進学・就職にすばらしい成果をあげているからにはかなりません。そしてそのかけには、先生方の並々ならない御指導があったからです。先生方は、一人一人の生徒を大切に、親切に、キメこまかな指導をモットーに、日夜努力しています。毎日毎日の真摯な授業の積み重ねが立派な成果を生んでいるのです。

そして私はまた、生徒の皆さんのびのびと勉学できる教育環境づくりに心掛けています。学校の施設設備の整備充実がそれです。しかしながら、本校の校地については、宇都宮市の中心部にあるため、現在の校地を拡張することはほとんど不可能といってよいでしょう。そのため、さきに那須リゾートの中心地、湯本に三万三千平方メートルの校地を購入しました。生徒の皆さんの勉学や合宿などに利用する研修センター

ターの建設を予定しています。

それに先立って、現在の校地では、新しい体育館の建設がこの四月から始まります。現在の体育館は、本校創立六十周年を記念して、昭和三十六年に建設されたものです。当時としては、近代的感覚にあふれた堂々たる体育館で、宇都宮市内では随一といわれたものです。しかし、三十年を経過して内部設備も旧くなってきています。数年前に建設した第二体育館・屋上プールだけでは、二千五百名の生徒が使用するには狭隘です。そこで、現在の体育館をとりこわし、その跡地に二層の大体育館を建設することになったのです。

その一階は、体育館スペースに加えて、玄関ホール、来賓応接室、シャワー室、更衣室、トイレなどを設備し、さらに第二体育館と同フラットとして、共通利用ができるように設計されています。また二階部分は、バスケットコートが二面とれる体育館スペースに、大ステージ、音響調整室、体育研究室、体育用具室などが設備されます。入学式や卒業式は、この二階の大体育館を使用して行われることとなるでしょう。

本年三月九日に行われる卒業式は、現在の体育館での最後の卒業式となります。三十年間、一万九千名の卒業生を送り出した体育館も三月からとりこわし工事にかかります。このため平成四年度の入学式は県庁前の栃木県総合文化センターのメインホールで行います。前ページに掲げた写真、新しい体育館の完成予想図です。外観は、すでに完成している須賀栄子記念講堂と同じデザインとし、正門から見て左右対象の建物となります。一般の体育館とは内容・外観とも異なる本格的なビル構造です。

大工事ですから工期は一年六か月かかります。この間在校生の皆さんの体育の授業などに不便をかけることと思いますが、新しい体育館の完成に期待してください。

【校長略歴】昭和二十四年東京大学卒業、文部省勤務、文部大臣秘書官、文化財課長、教科書課長、初等教育課長等を歴任、昭和四十三年須賀学園に戻る。  
現在、須賀学園理事長、宇都宮短期大学長、同附属中学・高等学校長、日本私立短期大学協会常任理事、日本私立中学高等学校連合会理事、栃木県私学審議会委員、栃木県公安委員、栃木県交響楽団会長等

# 学園告知板

校長先生に文部大臣賞  
永年私学振興に貢献のため

私立学校の振興発展に多大の功績をなされてこられた須賀校長先生が十月三十日に井上 裕文部大臣(当時)から表彰をうけられました。

校長先生は私立学校審議会委員として昭和四十九年六月以来現在までずっと在任され、本校の理事長、校長としての多忙な中であって、全国私立学校のために努めておられます。

校長先生おめでとうございます。今後ますます健康に注意されてお励みください。

## 税務署長から感謝状

税に関する作文で、今年度は最高の国税庁長官賞を獲得するなど、本校では毎年多数の作品を応募しております

が、さきごろ租税教育の普及と推進、納税思想の高揚に大きく貢献してきたとして宇都宮税務署長から感謝状が贈られました。||写真

感謝状は六月十四日に渡辺和弘署長(当時)が本校を訪れて贈られましたが、これからおおいに作文や標語の応募を通して、さらに貢献したいと思えます。

## 平成三年度PTA総会開く

平成三年度のPTA総会は五月二十五日、記念講堂大ホールで開かれました。猪瀬捷昭副会長ら任期満了の七名に、それぞれ感謝状と記念品が贈られたあと、平成二年度の事業報告並びに収支決算、平成三年度の事業計画案並びに収支予算案の協議につづいて役員改選が行われました。



## 会長

松岡 祐祥

## 副会長

篠崎キミエ

## 同

田村昭夫

## 同

倉沢秀明

## 同

山崎守男

## 同

塚本美貴吉

## 同

六川彦次

## 同

佐藤 幣

## 同

大久保健三

## 同

富川文夫

## 同

庄田忠司

## 同

渡辺 衛

## 同

岡田喜三

## 同

阿部征也

## 同

他七十六名

## 見事長官賞に鈴木さん

税に関する作文コンクール

平成三年度の税に関する作文コンクールで、生活教養科三年十組の鈴木友香さんは見事に最高の国税庁長官賞に輝き、その表彰式が十一月十三日宇都宮税務署で行われ、半田二百つぎ(宇都宮税務署長)から長官の賞状並びに副賞が伝達されました。||写真



今回は全国十二の国税局管内から十万六千点(高校の部)の応募があり、質量ともにこれまでになく、大へんな激戦でした。鈴木さんの作品を次に転載さへいただきます。

## 青い心で納税を

三年十組 鈴木友香

「お母さん、何してるの？」  
すでに、夜の十一時を回っているといふのに、いつも早々と寝てしまう母が、今夜は食堂の灯りのもとで、シンコクになってるのを見た私は、正直に言って母がよほど何か大きな悩みでも抱えこんでいるのではないかと心配になってしまいました。

「申告よ。シン・コ・ク。」

「え、深刻？」

「青色申告。」

「アオイロシンコク？」

私は、その時まで青色申告という言葉の意味が何なのか恥ずかしい話、全く知りませんでした。

青色申告、辞書で調べてみると、『政府の認めたやり方で帳簿を作り、青い用紙に書いて所得税を申告するやり方。』と書いてあります。もつと詳しい話を母から聞こうと帳簿の整理が終わった頃を見計らい、食堂に顔を出し

ました。

美容室をやっている母は、一人お客さんが終わる度に食堂で分厚い大学ノートに何か書き込んでいたので私は、(いつも、何をしてやるんだろ)と気にもとめなかったのですが、その見慣れた分厚いノートが右側にしつかりと置いてある所を見ると、それがどうやら青色申告というものに関係ありそうです。「お母さん、青色申告って何?」「青色申告も知らないの?それじゃ確定申告は?」「カクテイシンコク?」「辞書で調べてごらん。」

「確かに官庁の命令に対して文書で申し出ること、だって。」  
「そう。ようするに、年度末に、一年間のお金の動きを整理してそれに相当する額の税金を納めるの。」

「ふうん。青色申告とどう違うの?」「青色申告っていうのは自分で事業をしている人がするもので、その他の会社員などは青色申告に対して白色申告で納税するのよ。」

「ふうん。」  
私は、ここでまたもらした。

「何で青色との区別があるの?」

「青色申告にすると、事業主なのに給料が貰えたりね、本当に事業主にとつてありがたいな、と思うような特典が付いているしね。それに、何よりお母さんが嬉しいのは、どうして、青色なのかって言うたら、青には正直、安全希望とかいうような意味があるからなんだって。だから、この青い用紙を出す時には、ああ、正直なんだなって認めてもらっているように誇らしくなっちゃうの。」

などと、母は嬉しそうに税について、特に青色申告について語ってくれたのでした。

確定申告といえば、また脱税というのも付き物。こちらの方は脱税をテーマにコミカルに描いた映画などで、私でも大まかな意味はつかめていました。母の話聞き、また母の税に対する姿勢を見てからは、一層脱税などをして自分ばかり逃げ道を作っている人々が許せないと思えてなりません。そしてまた、自分が納税する立場になったら絶対に、「青い心」で申告しようと思うのでした。

「年度末で忙しいのに大変だね。」

と母に言ったら、  
「年度末だからこそ力が入るの。一年間、自分達の税金から多大な恵みを受けたからこそ、みんなが幸せで、平和に暮らせたのよ。感謝を込めて、今年も来年の幸福の為に、と思うからね。」

と、母は納税する事に様々な思いを込めているようでした。  
雨の日には、どんよりと黒く、曇りの日は灰色に、そして、晴れた日にはぬけるように青く、どこまでも広がる空を見ていると「青色」に込められた意味が本当に良く分ります。そして、晴れ上がった真つ青な空に包まれて生活している私達は、正直に生きなければいけないな、とつくづく思いました。

税金の仕組みの話が、私に様々な事を考えさせてくれました。そして税金は、単に、社会公共の施設の充実などに使われるばかりでなく、人の心までも活かしてくれるのだなあと、改めて税の重要さと、大切さを実感させられたのでした。

### 株と日本経済学ぶ

東京新聞の一日記者体験

三年八組 日下田英美

新聞週間の行事の一つとして私は、去年の十月十七日に東京新聞社主催の「一日記者」になり、東京証券取引所へ取材に行った。最初に、東京新聞社の社屋で懇談や見学をしたのだが、初めて知ることばかりで驚きが多かった。新聞社の幹部の方々の懇談の後、社内見学をし、そして車で東京証券取引所へと向かった。

まず、建物の立派さに驚いた。証券取引所などと言うと、人間の息吹きに満ちたゴミゴミした所を舞台に行われていると無意識に思い込んでいた自分には、何か拍子抜けする思いだった。そこには、証券取引所のことについて、何もわからない人のために説明してくれる、いろいろな設備もあった。

また、立会場を見た時には、イメージしていたよりも取り引きしている人が少ないことに驚いた。それは、損害

### 手芸作品展にぎわう

須賀校長先生が部会長を勤めている県高校文化連盟手芸部会(参加三十三校の第十三回高校生手芸作品展が十一月二十一日から三日間、完成したばかりの県庁前にある県総合文化センターギャラリーで開かれ)写真期間中九百人の来場者を記録しました。

今回は染色、ししゅう、パッチワークなど出品作も広範囲にわたり、二十三校で約五百点を数えましたが、本校では、高校生の作品としては珍しい更紗染めのゆかたやワンピース、クッション、テーブルセンターなどをはじめ刺しゅうやドレスなども加えて質量ともに断然他校を抜いていて、来場者の方々の「高校生とは思えない」「こんなすばらしい作品が作れるの」との声が、会場あちこちで聞かれました。

生活教養科では先生方のご指導で、早くも次回の作品展に向けて制作をはじめられています。



野沢養護学校に  
エプロン贈る

昨年も、創立者須賀栄子先生のご命日にあたる十月十四日に生活教養科の一年生たちは、材料を持ちよってエプロン百枚を制作し、下野新聞社を通して県立野沢養護学校に贈りました。が、同校生徒さんから次のようなお礼状を

いただきました。

宇都宮短期大学附属高等学校の皆さん  
冬の寒さもますます厳しくなり皆さん  
どうぞお過ごしですか。

私達は、二学期最後の行事である「冬季球技大会(バスケットボール)」の練習に熱を燃やし、毎日を送っています。ところで、先日、たいへんたくさんの手作りエプロンを頂きまして、誠にありがとうございました。

生徒一同感謝の気持ちを込めて、喜んで使わせて頂いております。

そして、これを機会に皆さんとの交流をより一層深めていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

平成三年十二月七日

栃木県立野沢養護学校

生徒代表 神長浩子

増淵君(二一十五)  
体験発表会に出場

県内の産業関係高校生徒の体験発表会が十一月二十一日に、本校の記念講堂大ホールでありました。

県内各高校の応募者のなかから第一

次予選を通過した十名が、それぞれの

部門で体験したことを発表しました。

本校からは調理科三年十五組の増淵君

が「日本と海外の食生活」と題して、

ニュージールランドでのホームステイを通じて、

ニュージールランドと日本との食生活の相違や、

今後日本料理のあり方や調理師の使命などについて

熱弁を振り、優良賞に選ばれました。

好評だった手づくりの品を  
高校入試説明会のみやげに

平成四年度の入試(高校)説明会は九月二十日に開かれました。出席なさった県内外の中学校の先生方は百三十名を数えましたが、当日のおみやげにと生活教養科のみなさんが作った、

ティッシュペーパーケースとパウンドケーキを差し上げたところ、大へん好評でした。

次はそのお礼状の一部です。

芳賀中学校

齋藤和子先生から

ケーキ、さつそくいただきました。わが家の子どもたちをはじめ、全員で楽しく、あなたをいろいろ想像して話し合いつついただきました。

ありがとうございます。

高校時代って案外に短いものです。しっかりと勉強して、すばらしい人になつて下さいね。 早々

姉妹校(ニュージール  
ランド)から初の訪問団

姉妹校のニュージールランド・マヌカウ市にあるホーウィックカレッジから

昨年五月、初の訪問団が来校しました

写真(若鮎)16号にも掲載。一行は団長のニール・グラント教務部長先生

ら職員五名、生徒十五名です。十一日から二十一日まで、それぞれ本校の先生や生徒の家でホームステイを体験しながら宇都宮市長を表彰訪問したのち

本校の施設を見学したり、一緒に本校生徒と机を並べて授業を受けたり、そのあい間には日光や益子などを訪れたりと短い期間でしたが沢山の収穫を収めて帰国しました。

二年十組 川島典子さんへ

暑さ寒さも彼岸までと申しますが、突然のお便り失礼いたします。私は過日貴校の説明会に出席させていただきました。川島さんがお作りになりましたティッシュケースをいただきました。とってもきれいにできているのに、ただただびっくりしております。パイヤステープの作り方、そして刺しゅうと細やかなところにも気を配られて作ってありました。さすが宇短附高校のご指導よろしきを得て作られただけありますね。

さつそく生徒達にも見せ、授業に役立てたいと思います。すばらしい学校で学習できて幸せですね。どうぞ今後なればできない学習を身につけてすばらしい女性に成長してくださることをお祈りいたします。本当に有難うございました。

かしこ

星が丘中学校

菊池亨江先生から

一年六組 橋本美和子さんへ

今日、御校の高校入試説明会にうかがいました。帰りにあなたの作品のお土産をいただいてまいりました。

私の大好きな「都忘れ」の小花が可憐なティッシュケースでした。大切に使用させていただきます。

ありがとうございます。

一年生で、こんなにすてきな作品のできる宇短附生活教養科の皆さまのご活躍を期待します。

船生中学校

上野 武先生から

一年十六組 大串麻季さんへ

お元気で頑張っていますか。

私は二十日に入試説明会に出席した者です。(塩谷町立船生中学校に勤務しています)

あなたのお心のこもったフルーツ

とくに本校での茶華道やソロバン、着物の着付教室には大へん関心を示し、次々と挑戦する人も現われました。



### 相互理解に感動

韓国研修旅行の報告から

音楽科三年 金子真由美

去る七月二十七日から三十日にかけて

て行われました。第二五五地区イン  
ターアクト韓国研修旅行について、報  
告をさせていただきます。

七月二十七日、私達は不安と期待を  
抱きながら、成田を発ち金浦空港に到  
着しました。バスに乗り、景福宮へ向  
かう途中に見えたソウル市内は、広い  
道路に多くの車が走り、道の両側には  
近代的な建物が立ち並び、日本と同じ  
ようでした。景福宮は、五大故宮のう  
ちの一つで、一三九二年に李王朝の太  
祖の李成桂が都をソウルへ移す為に正  
宮として建てた王朝だと、ガイドさん  
が教えてくれました。勤政殿の中の  
柱や天井に描かれた模様は、一度も塗  
り変えをしていないとのことでしたが  
とても鮮やかでした。夕方、普成高校  
で交歓会が行われました。普成高校の  
先生方や生徒たちが、バスから下りた  
私達を暖かく迎えてくださり、交歓会  
の会場へ行く途中に、夕日に照らされ  
た校内を案内してくださいました。交  
歓会では、韓国の生徒が、珍しい獅子  
遊戯や民族楽器の演奏をして歓迎して  
くださり、よい思い出となりました。  
また、両国の生徒が食事をしながら、

お互いに英語で会話をしました。単語  
を口にしたたり、ジェスチャーをするだ  
けでしたが、お互いに理解できた時の  
感動は忘れられません。また、英語に  
対する考え方を改めるよい機会となり  
ました。

七月二十八日は民族村を韓国の生徒  
の方々に案内していただきました。重  
い薪を運び陶器を焼いたり、竹を編ん  
で入れ物を造ったりする伝統工芸を見  
学しました。午後は明洞へ向かい両国  
の生徒が自由行動となり、私のグルー  
プは、地下街やデパートを見て回りま  
した。夕方になり、仲良くなった韓国  
の生徒とお別れの時が来ました。皆、  
写真を撮ったり、住所の交換などをし  
て最後のお別れをしてバスに乗りまし  
た。

七月二十九日は、三十八度線の板門  
店へ行きました。ここはこの研修旅行  
で、一番印象に残りました。平和そう  
な青空の下で、緊迫したムードの中、  
警備にあたっていている両国の兵士は、一  
体何を考えていたのでしょうか。隣接  
した国なのに、お互いの心は遠く離れ  
ているのでしょうか。私は今日の日本

謹言

つ御礼の手紙とさせていただきます。

宇都宮市横山町一六二一八九

信田義雄様から

生徒会へ

そのうちの最高齢者は三年十八組、  
中茎明子さんのおばあさまの九十六歳  
でした。

沢山のお礼状をいただきましたが、  
そのうちの二通をお伝えします。

塩谷郡藤原町大原一〇六〇一七二

星野新吉様から

生徒会へ

謹啓

突然のお手紙を差しあげます御無礼  
をお許し下さい。

貴校に内孫が御世話になっておりま  
す八十六歳の爺で御座居ます。

九月十五日敬老の日、貴校生徒会よ  
りの御祝の品を孫より手渡されました。

他市の高校からの御祝など思っても寄  
らぬ事で、大変嬉しく思いました。

これも校長先生の御教育方針の賜と  
敬服致しております。

貴校の好評を多方面で耳に致します  
が、今度殊更孫が良い高校を選んで呉  
れたと喜んでおります。

今後共宜敷く御教導下さいませ様又  
御自愛專一に願ひ上げ御健康を祈りつ

の平和のありがたさに感謝すると共に、  
戦時中、日本が韓国に残した大きな傷  
を、忘れてはいけないと思えました。  
そして、離れ離れになってしまった家  
族の方々が一緒に暮らせる日はやく  
来る事を願わずにはいられません。  
最後になりましたが、このような有  
意義な機会をお与え下さいました、第  
二五五地区インターアクトクラブの皆  
様や、先生方に心からお礼を申し上げ  
ますとともに、お忙しい中を御引率く  
下さいました、インターアクト委員長  
の大貫先生や各ロータリークラブの皆  
様方に心からお礼を申し上げます、  
私のご報告とさせていただきます。有難う  
ございました。

### 今年度もプレゼント 生徒会で敬老の日に

生徒会では今年度もまた九月十五日の  
敬老の日にお年寄へプレゼントとして  
ティッシュボックスをお贈りしました。

対象となったのは在校生や職員の家  
庭で同居している七十歳以上の方々で  
すが、全部で八百十三名でした。

拝啓

毎日のうつとおしい天気には、ほん  
とくに困ったものです。校長先生は  
じめ生徒会役員の皆様、この悪天候の  
中、如何お過ごしでしょうか。多分、  
会の運営発展のために休むひまもない  
多忙な毎日を送っておられることと拝  
察申し上げます。ご苦労さまです。

突然お手紙を差しあげます御無礼を  
お許し下さい。私こと保田義雄と申す  
七十八歳になる老人でございます。過  
日と申しても、今となってはもう一か  
月も前のこととなり、何を今更とい  
うことになるのですが、申し上げなけ  
れば私の気持ちが悪くありません。敢えて時  
期を失し、すっかり出遅れてしまいま  
したが一言お礼とお詫びの言葉を申し  
のべさせていただきます。  
過ぐる九月十五日の敬老の日には、

御校生徒会の皆様から心のこもった記念品を贈っていただきまして誠にありがとうございました。心から御礼申し上げます。

ちょうど一つ欲しいなと思っていた矢先だったので、本当に時宜にピッタリの御品をいただいて喜びもまたひとしおでした。

それにつきまして、重々お詫び申し上げます。上げなければならぬことがございます。

皆様もすでにご存知のことでしょうが、記念の美しい小箱をいただいでから、もうすでに一月にもなるのに、一言のご挨拶もせずに打ち過ぎました御無礼の段、なんとお詫び申し上げます。よいやら言葉に窮している次第です。皆様の純な温かいお心をどんなに深く傷つけたことかと思うと、ほんとうに申し訳ございません。

今日のご返事を上げよう、明日は：と心だけは毎日あせっていたのですが、性来の筆不精、やっぱりこんな遅れてしまいました。

いただきました小箱、早速開いてみたところ、私共夫婦の好みにびつたり

なのに大喜び、その時から使わせていただいております。

落ちついた赤の色調、その上に大きく配された四季の花々、またその間に散りばめられた描かれた扇面、どことなく漂うみやびた古典的な風情に、すっかり見惚れてしまいました。

このような凶柄を選んで下さった皆様の心も床しく惚ばれて、その日は本当に楽しい一日となりました。小箱は老夫妻共々に末長く使わせていただきます。大切に大事に使います。

小箱は今年英進科一年に入學してお世話になつて孫娘の雅美が役員の方から預かって持ってまいりました。顧問の先生にも、どうぞよろしくお伝え下さい。

私共夫婦もおかげ様にて目下のご健康にも恵まれ、毎日元気に過ごしております、ありがたいと思っております。

十月も半ば、早いものです。ぐずついている天気も、やがて回復し秋晴れの良い天気が訪れることでしょう。役員の皆様、生徒会の皆様の御健勝を心からお祈り申し上げます。意見を尽せない文章ですが、どうか御判

読の上、万分の一でも意のあるところをお汲みとり下さいましたら本望です。敬具

### 投書

小さな親切を实践  
一人は一枚を代表する

老人やからだの不自由な人たちにはいたわり、手をさしのべましょう——こんな当り前のことがなかなか行われにくい世の中ですが、さきごろ小金井在住の方から、次のようなうれしい投書が学校にまいりました。ご紹介します。

### 須賀校長先生へ

突然お手紙を出して申しわけありません。このごろ電車の学生は自分の横の席にカバンを置いて、一般の客もその席に座れないということが多く見受けられる今日この頃です。私は毎日小金井駅より宇都宮駅まで通勤しており

### 教育実習生に聞く

昨年六月にはまた本校出身の学生をはじめ多くの教育実習生が二週間にわたって教育現場での実習を行いました。その感想を次に書いていただきました。

### 教育実習を終えて

北里大学衛生学部 三杉和明

二週間に及ぶ教育実習が終了した。実習初日は、まだ学校の生活になかなか乗り切れず、悩みもあったが、それは時間が解決してくれた。

ホームルームでは、二年五組を担当したが、一度も授業では一緒にならなかった。そのため一緒にいるのは、朝のホームルームと帰りの清掃だけであつた。なかなか生徒全員の名前を憶えることが出来ず苦労したが、毎日五人ずつ憶えていった。また、機会あるごとに出来る限り名前を呼んで親近感

ます。今日はとてもいい所を御校の学生と思われの人が実行したので、一筆連絡申し上げたいと思ひペンを走らせます。

六月一日(金)の十七時発上り電車内のことです。すでに女学生は友達二名で座席に座っていたところ、身体の不自由な老人が乗車して来ました。

席はほぼ満席であるため、老人はドア近くでツエをついて立っていました。女学生の一名がさつと立って、その老人に席をゆずりました。私は約十年ほど通勤していますが、OLが時々そのようなことをするのは近年見かけることがないようです。

学校でしつけをうるさくしている学校も多くあると思いますが、やはり、すべて先生にまかせている親が多いのですが、本来しつけというものは、自分の親がすべきものであると思います。きつとこの女学生は親のしつけがよかつたのかと思っております。

朝礼の時にでも、この女学生を是非

ともさがして褒めてやっていただきたいと思います。

女学生ののびたいのの様子を連絡します。

①電車通で小金井駅より先である。

②学生服にグレイのネクタイ(学年はネクタイの色でわかるのですか)

③左腕に黒色の大きな時計をしている。(感じとしては男物のようです)

これくらいしか私の記憶に残っておりません。よろしく願います。

私は女学生のとなりに座っていた普通のサラリーマンです。

(編集部注)

さつそく学校で調べたところ、この生徒は普通科二年一組、日高幹子さん(宇短附中出身)とわかりました。

HRで担任の守谷浩和先生から、この投書のことを知らされた日高さんは「当たり前のことでした。これこそ一人は一枚を代表する。すばらしいことです。日高さん、ありがとう。」

## 編集後記

「ひめまつ」四十六号を皆さんにお届けできるのは、私たち編集委員の大きな喜びであります。

「ひめまつ」も発刊してから、もう少して実に半世紀を迎えようとしています。まさに本学園の歴史とともに歩んでまいりました。

前回から表紙を、全校から公募した中の優れた作品で飾ることになりましたが、本号では表紙のことはにもありませんように、生活教養科二年十組、草間奈緒子さんの力作を使用いたしました。

恒例の校長先生の巻頭言では、私たちにとって大へんうれしい新しい体育館建設のお話です。長い間、なれ親しんできた体育館が姿を消すのはさびしいことですが、近代的な設備と様式の新体育館に期待しましょう。

声欄では、青春時代を考えるという身近なテーマだっただけに、近年にないすばらしい原稿が集まり、係り一同喜んでおります。また、本号では、とくに「トビックス」欄を設けて校外の人々との交流や、生徒の各方面での活躍を紹介いたしましたので、ぜひご覧になってください。

生徒会誌「ひめまつ」を全校生でつくろうとの考えが年々高まり、原稿ばかりでなく、写真、書、カットのイラストなど多方面にわたる作品をお寄せいただくようになり感謝感謝です。

おわりになりましたが、和久 誠、大谷 武、菊田民子の各顧問先生はじめ各学級の編集委員の皆さんのご協力に

より、力不足の委員長ながら、なんとか大役を果たすことができました。ありがとうございました。  
(編集委員長 高橋一茂)

「ひめまつ」第四十六号(非売品)  
平成四年三月十日印刷発行

宇都宮市陸町一番三五号

宇都宮短期大学附属高等学校

編集人 顧問 和久 誠

発行人 生徒会長 阿久津 純子

印刷所 宇都宮市鶴田町一三五九の一

ヤマゼン印刷株式会社

印刷人 山本 征一郎

発行所 宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

〒320 TEL〇二八六〇四一六一―三番

## 校史と校章

本学園は、平成2年11月に創立90周年を迎え、さらに100周年に向けて発展充実の歩みを進めています。創立者、須賀栄子先生は、女子に最も適切な技芸を教授し、その時代と境遇とに順応すべき実際の婦人の養成を教育の主旨とし、共和裁縫教習所から、共和裁縫女学校、宇都宮須賀女学校、宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、発展させてゆかれました。その後を須賀友正先生が受け継がれ、学制改革により、宇都宮須賀高等学校となり、さらに、宇都宮短期大学を設置し、高校も宇都宮短期大学附属高校と改名されました。友正先生の後を受け継がれたのが、現校長先生でいらっしゃる須賀 淳先生です。先生は宇都宮短期大学附属中学校を設置し、ますます学校を発展させて、現在に至っております。

我が校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉の意味は、生徒一人一人が、それぞれに、本校生徒としての価値を知り、その価値を自覚することこそ、人間の大きな喜びであり、幸福への素材であるとし、学校はそのあり方を勉強する場であるというのが、須賀栄子先生のお考えです。私たちは現在、この言葉を胸に、本校生徒としての価値を認識し、生活しています。

本校には、現在に至るまで、いくつかの校章がありました。現在使われている校章の由来は、創立者須賀家の祖先が武士の旗印として使っていた、「ス」の文字を3つ組み合わせたものです。